

文化薫る 地域の魅力づくりプラン

概要版

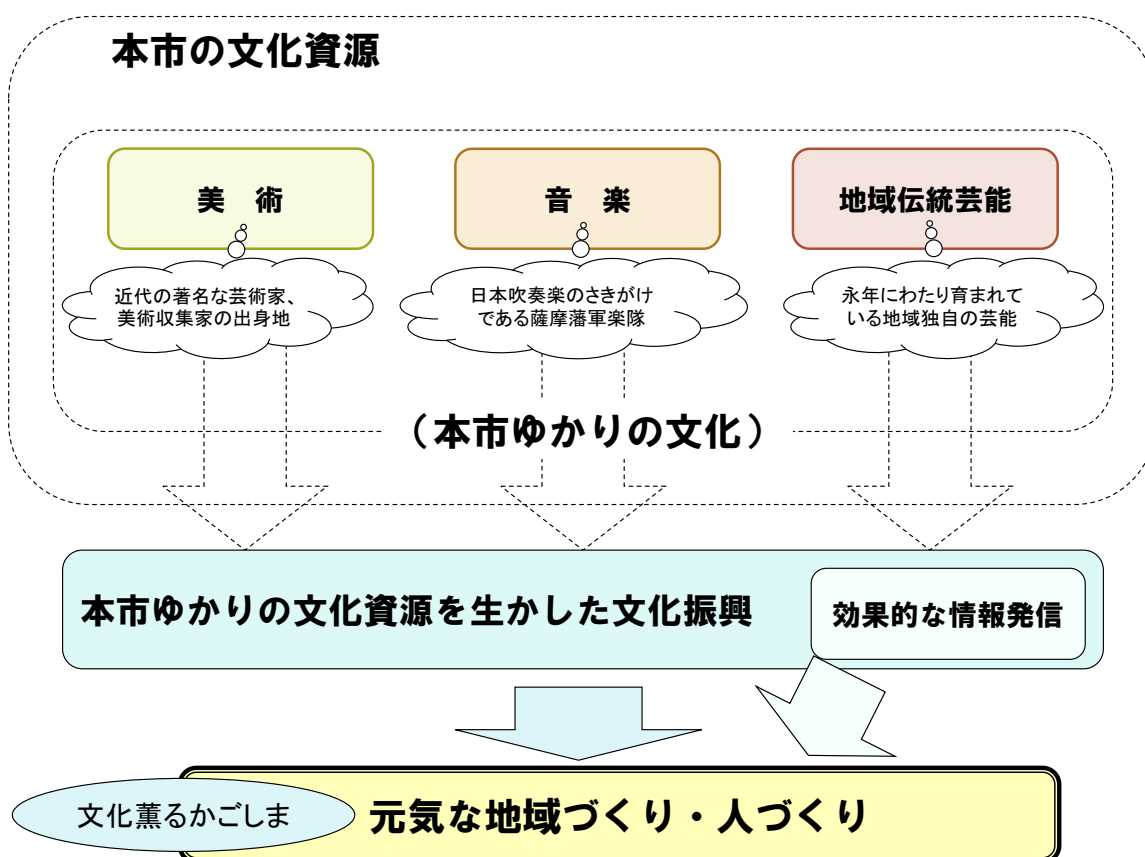


鹿児島市

1. プラン策定の目的

都市化の進展や少子高齢化の進行などにより、これまで永年にわたって育まれてきた伝統芸能や祭り、風物詩を継承していくことが難しくなりつつあります。また、本市は、黒田清輝、藤島武二、松方幸次郎等の芸術家、美術収集家の出身地であることに加え、日本吹奏楽のさきがけである薩摩藩軍楽隊を生み出したことなど、美術や音楽にもゆかりの深い都市です。

これらを踏まえ、本プランにおいては、「美術」「音楽」「地域伝統芸能」に重点を置き、各分野の地域資源を掘り起こし、地域住民、NPO、ボランティア、事業者など市民みんなで地域文化を守り育てる取組を進めます。また、各地域での取組に光を当て、分野別・季節別・地域別などさまざまな切り口での情報発信等により、文化薫るかごしまづくり、文化振興を通じた元気な地域づくり・人づくりを進めます。



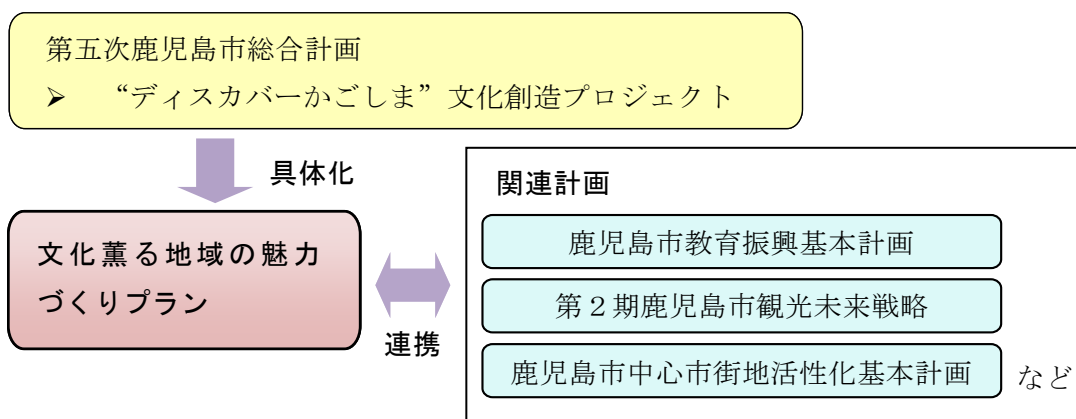
2. プランの位置づけ

第五次鹿児島市総合計画においては、都市像に掲げる「人・まち・みどり みんなで創る“豊かさ”実感都市・かごしま」を実現するため、特に先導的かつ重点的に取り組むべきものを「豊かさ実感リーディングプロジェクト」として5つのプロジェクトを掲げています。

その中で、文化振興を通じた元気な地域づくり・人づくりを進めるために、「ディスカバーかごしま」文化創造プロジェクト」が位置づけられています。

本プランは、「“ディスカバーかごしま”文化創造プロジェクト」の取組を具体化するとともに、鹿児島市教育振興基本計画、第2期鹿児島市観光未来戦略、鹿児島市中心市街地活性化基本計画等の関連計画との整合を図り、取組の連携も視野に入れて策定いたします。

上位計画



3. プランの計画期間

第五次鹿児島市総合計画基本計画の計画期間は、平成24年度から平成28年度の5年間とされています。

このことを踏まえ、本プランの計画期間は、平成24年度から平成28年度の5年間とします。

4. 現状における課題

主要課題（分野共通の課題）

○文化への理解と気づきを促す機会・教育が必要

市民が文化について知る機会が不足しており、文化活動の中には市民にあまり知られていないものもあります。子どもの頃から文化活動に触れ、文化への理解と気づきを促す機会を創出することが必要です。

○地域間、団体間のつながりを形成する体制が必要

さまざまな組織が個別に活動しており、地域間や団体間の交流や連携も十分とはいえない状況にあります。分野を横断して意見交換しながら、目標や問題意識を共有し、連携の基礎となる場づくりが必要です。

○「鹿児島らしさ」の強化が必要

地域の文化価値を高めるためには、その土地で生まれた文化の背景を伝えることが重要であり、地域の素材や人を活用し、「ここにしかない」ものを磨き上げることが必要です。また、鹿児島をフィールドとして既存の文化と新たな文化を融合し、鹿児島の新たな魅力を生み出すことも必要です。

○「伝わる発信」が必要

文化に関する情報が個別に発信され、知りたい情報が簡単には得られにくく、また、鹿児島の文化を正確にわかりやすく伝える情報発信が不足している状況にあります。活動や人の情報を集約するとともに、市内外の人に鹿児島の文化の魅力を感じてもらえる見せ方を戦略的に行うことが必要です。

分野別課題

美術

◆「質」を高めるため、アートに触れる機会を増やすことが必要

これまで、「質」の高いアートに触れる機会や、自由に語りあう「場」が限られてきました。また、アートの情報発信や、市民が楽しむための工夫も十分とはいえませんでした。身近な環境の中でもアートに触れる機会を増やし、これらを楽しみ、より深く理解するための多様なプログラムや情報発信のための「場」が必要です。

音楽

◆音楽活動をしやすい環境づくりが必要

音を出すことへの制約が多いため、自由に使える練習場や発表の場が不足している状況にあります。自由な練習環境や柔軟に使える発表空間を確保し、市民が音楽活動をしやすい環境をつくる必要があります。

地域伝統芸能

◆地域の誇りとして、「本物の伝統芸能」を守り伝える認識が必要

近年、各地域の伝統芸能の保存会の中には、活動を休止する団体も出てきています。また、伝統芸能が残っている地域においても、その意義や本質をそのまま伝えられない状況もみられます。地域に根付く伝統芸能の意義や本質を地域の世代間のつながりの中で大切に伝承することが必要です。

5. プランの目標

本プランにおいて重点的・先導的に取り組む3つの分野（美術、音楽、地域伝統芸能）に係る事業を通じてめざしていく目標を、次のように掲げます。

伝承と創造でひらく 文化薫るかごしま

美術・音楽など本市にゆかりのある文化を生かしたさまざまな取組を行うとともに、各地域に伝わる伝統芸能を大切に守り伝えます。

また、伝統ある文化と新たな文化を融合させることにより、新たな魅力を創造する「文化薫るかごしま」へ発展します。

6. 基本方針

基本方針①

市民みんなで文化を盛り上げる ～人づくり・体制づくり～

- 文化の本質を市民全体で共有する
- 文化を支える取組を連携させる

基本方針②

文化資源を磨き、「ここにしかないもの」を築く ～継承・発展～

- 文化を守り、磨き上げる
- 文化を発展させ、新たな魅力を生み出す

基本方針③

地域に根ざした多彩な文化資源を活用し、まちの価値・魅力を高める ～活用・交流～

- 身近な所に活動の場を提供する
- 「かごしま文化」を交流の手段として活用する

基本方針④

文化を通じてまちの魅力を一体的に発信する ～情報発信～

- 文化情報を効果的に発信する
- 「かごしま文化」をプロモーションの素材として発信する

7. 分野別方針

美術

◆「質」の高いアートに触れ、自由に語りあう機会を増やす

身近な環境の中でもアートに触れる機会や、それらを楽しみ、より深く理解するためのプログラム（ワークショップ・ギャラリートーク等）や「場」（アートサロン）を準備し、市民が「質」の高いアートを身近に体感できるしかけを行います。また、アートを鹿児島市のプロモーションの手段として活用し、戦略的に発信します。

音楽

◆音楽活動の舞台、フィールドを確保する

歴史や景観、地域独自の四季の彩りなどを生かした演奏の場をつくりまします。また、市民が身近に音楽を楽しめる環境をつくるため、練習の場を確保するとともに、日頃の音楽活動の成果を発表する場を設け、アーケードや広場などまちなかをステージとしたコンサートを開催します。

地域伝統芸能

◆「本物の伝統芸能」の価値を共有し、発展させる

子どもから大人まで地域伝統芸能に興味を持つ市民のすそ野を広げ、市民みんなでその価値を共有するため、地域伝統芸能の意義や本質を伝える機会を設けるなど、正しく伝承するための取組や人づくりを進めます。また、地域間の連携や、学生など地域外の人との交流などを通じて、「楽しさ」を付加させ、地域の伝統芸能をさらに発展させます。

8 プランの体系（プランの目標、基本方針、分野別方針、重点事業）

伝承と創造でひらく 文化薫るかごしま

9. 重点事業の概要

■ 美術

重点事業① 「質」を高める

既存の文化施設や美術館周辺の公共スペースを活用して**アートサロン**を設置し、そこを拠点に以下のプログラムを実施する。実施した内容はTwitterやSNSを活用してリアルタイムに情報を発信する。

- **ギャラリートーク**(美術に関して知識のある人を招いて美術を鑑賞しながら、その美術について自由に語りあう場をつくる。)
- **鑑賞教育プログラム**(子どもから大人まで多種多様な「質」の高い美術を見る機会を増やし、主体的に評価できる鑑賞者を育てるための講座やワークショップ等を実践する。)
- **ツアー&トークセッション**(市内の美術館やギャラリー等を巡る鑑賞ツアーとお互いの考えを話しあうトークセッションをセットで提供する。)

重点事業② 広める

市民にとって身近な空間である市電、バス、フェリーといった公共交通機関をアートで彩ることや、鹿児島県のまちなかに点在している歴史的な建造物などを展示空間として活用することにより、日常の中で自ずとアートに触れる機会を創出する。

○ 公共交通機関のアート化

市外、県外の人々がアート化した公共交通機関を目当てに鹿児島を訪れたいような遊び心をもたせたいし、PRを行う。例えば、まず有名アーティストにデザインを依頼して注目を集め、その後にデザインの公募を行うなど、公共交通機関のアート化の過程にイベント性をもたせた展開を検討する。

○ まちなか展示空間の設置

展示空間として貸し出すことが可能な施設をリストアップして、その受け入れ窓口を設置し、利用者の募集から貸し出しまでトータルでコーディネートする。

重点事業③ 集める、活用する

○ ガイドブック「アート イン かがしま」の発行・活用

市民や観光客が鹿児島のアートについて理解を深め、アートをテーマに楽しみながらまちを巡ることができるように、ギャラリーマップ、回遊ルート、展示情報など鹿児島のアート情報を集約したガイドブック「アート イン かがしま」を発行する。

ガイドブック「アート イン かがしま」は、デザインにこだわって作成し、作成後は、電子化して広く発信するとともに、マップと連動させた回遊ルートを活かした観光メニューとして提供する。

また、アートに対する批評・話題について、タイムリーな情報を提供する。

○ アートを生かしたプロモーションの実施

鹿児島をプロモーションする機会にあわせて鹿児島出身の作家の作品や鹿児島をテーマにした作品を展示するなど、鹿児島のアートを活用して鹿児島をPRする。

■ 音楽

重点事業④ 誰もが音楽を身近に楽しめる仕組みづくり

○ まちなか音楽ステージの設定

まちなかを音楽ステージと見立て、公園や広場、路上などを活用し、市民誰もが成果を発表できるステージを用意し、まちなかに音楽が流れる魅力的な空間をつくる。

ステージの構築にあたっては、中心市街地活性化のためのさまざまなイベントとあわせて開催したり、現在実施している「よりみちクルーズ」の船内でコンサートを開催したりするなど、既存の取組との連携を意識する。

○ 既存施設を生かした練習場所の確保

公共スペースや民間施設など、練習場所として活用が可能な場をリストアップし、利用内容を含めて情報を発信した上で、利用しやすい環境をつくる。

重点事業⑤ あかりや景観・歴史を音楽でつなぐプロムナードづくり

鹿児島島の文化ゾーンを中心に音楽の演奏空間をいくつか設け、それらを“あかり”でつなぎ、鹿児島島の“景観・歴史”の中に音楽のある風景を演出する。

“あかり”を用いた取組としては、市内のライトアップスポットでの演奏会や竹灯籠コンサートを開催するなど、音楽と“あかり”とのコラボレーションにより演奏空間を演出する。

ステージの場所の選定にあたっては、鹿児島島の歴史やまちの景観を音楽で彩ることを意識し、歴史的建造物、錦江湾、桜島など、鹿児島島の景観・歴史スポットを生かした演奏の場づくりを行う。

重点事業⑥ 地域の文化や四季の彩りを音楽でつなぐステージづくり

合併後、旧5町の議場等を活用し「五色の花コンサート」として開催しているが、その実施内容を再検討し、地域独自の四季の彩り等を感じながら音楽を楽しめるイベントを開催する。

再検討にあたっては、単独での音楽イベントとして実施するのではなく、伝統芸能の披露や物産の販売など各地域で実施している既存の祭り・イベントと連携して、地域の文化や四季の彩りを音楽でつなぐ。

また、各地域において、他の地域で実施されている取組をモデルとして、地域住民の手で主体的に実施できるよう支援する。

■ 地域伝統芸能

重点事業⑦ 意義や本質を伝える媒体の作成

○ ハンドブック・民俗暦の作成

各地域の伝統芸能に関する十分な情報収集を行い、収集した情報をもとに地域伝統芸能の意義や本質を伝えるハンドブックを作成する。

ハンドブックは、デザインにこだわり、質の高いものにするとともに、鹿児島県の地域伝統芸能を学ぶ教材としても活用できるように、市内の小中学校や観光ボランティアガイドなどに配布する。

また、ハンドブックとサイズ、デザインを合わせて、市内全域の祭事・習俗を季節ごとに整理した「民俗暦」を作成し、その情報を定期的に更新する。

○ 記録用映像の作成

地域伝統芸能の踊りや唄を記録用映像として保存し、地域伝統芸能の本質や技能を後世に正しく伝承していくための資料とする。

重点事業⑧ 保存・伝承するための組織づくりと人材育成

○ 「地域伝統芸能保存会ネットワーク」の構築

各地域の行事や祭りの課題や悩み、保存・伝承のために工夫して取り組んでいることなどの情報を交換、共有する仕組みとして「地域伝統芸能保存会ネットワーク」を構築し、地域間の連携につなげる。

○ 地域伝統芸能教育の提供

子どもたちに、地域伝統芸能を知る機会を設けるとともに、地域伝統芸能を継承している地域においては、学校等の支援も受けながら、それぞれの地域に伝わる伝統芸能の背景や意義を学び実践する機会を設け、唄や踊りなど、地域に伝わる技の伝承とともに、その地域の伝統芸能の本質を伝承する。

重点事業⑨ 伝統芸能を体感できる舞台と仕組みづくり

○ 民俗月間の設定、文化体感ツアー・体験プログラムの提供

各地域で伝統芸能が多く披露される時期を「民俗月間」として、各地域の伝統行事に市民の参加を促す雰囲気づくりを行う。

民俗月間には、例えば、各地域に点在する伝統行事や祭りを巡り鹿児島の文化を体感するツアーや伝統芸能体験プログラムなどを企画し、観光メニューとして提供する。

○ 公共スペースを活用した芸能の舞台等の確保

公共スペース等を活用して芸能を披露する舞台等を確保し、各地域の伝統芸能を身近に感じ、その意義や本質について学ぶことができる空間をつくり、各地域の伝統芸能を一堂に集めて披露するイベントや、音楽、美術とのコラボレーションイベントを開催し、鹿児島の文化の発信拠点としてPRする。

■ 分野横断

重点事業⑩ 「文化薫るかごしまづくりシステム（仮称）」の設置・運営

○ 文化情報の集約及び発信

各分野に係わる「人」「活動」「場所」の情報をデータベース化した「文化薫るかごしまづくりシステム（仮称）」を構築する。

集約された情報を用いて、さまざまな要素を四季の風物詩としてパッケージ化したホームページやパンフレット等を作成し、市内外へ効果的に情報発信を行う。

ホームページでは、イベントや展覧会などを実施することができる文化活動団体・個人の活動情報を公開する。

○ 公共スペースの情報提供、手続きの簡素化

各種文化活動に必要となる公共スペースの情報を提供するとともに、公共スペースの利用にあたっては、簡易な手続きでイベントの開催や、パフォーマンスの披露ができるような仕組みを検討する。

重点事業⑪ 文化薫るかごしまづくりイベントの開催

文化薫る地域の魅力づくりプランに基づく取組を市民に広く伝え、文化への理解を深めるとともに、市民が文化活動に積極的に関わる意識の高揚を促進するために、本事業のオープニングイベントとして市民向けの「文化創造シンポジウム（仮称）」を開催する。

シンポジウムにあわせて、美術、音楽、地域伝統芸能の3つの要素を組み合わせたイベントを開催し、各分野における今後の取組につなげる。

イベント実施にあたっては、分野を横断した一つのテーマでつなぎ連動性をもたせるとともに、文化薫る地域の魅力づくりプランで位置付けた重点事業のイベント的要素などを踏まえて試行的に実施する。

<美術>

- ・美術に関する有識者を招いたトークセッションの開催 など

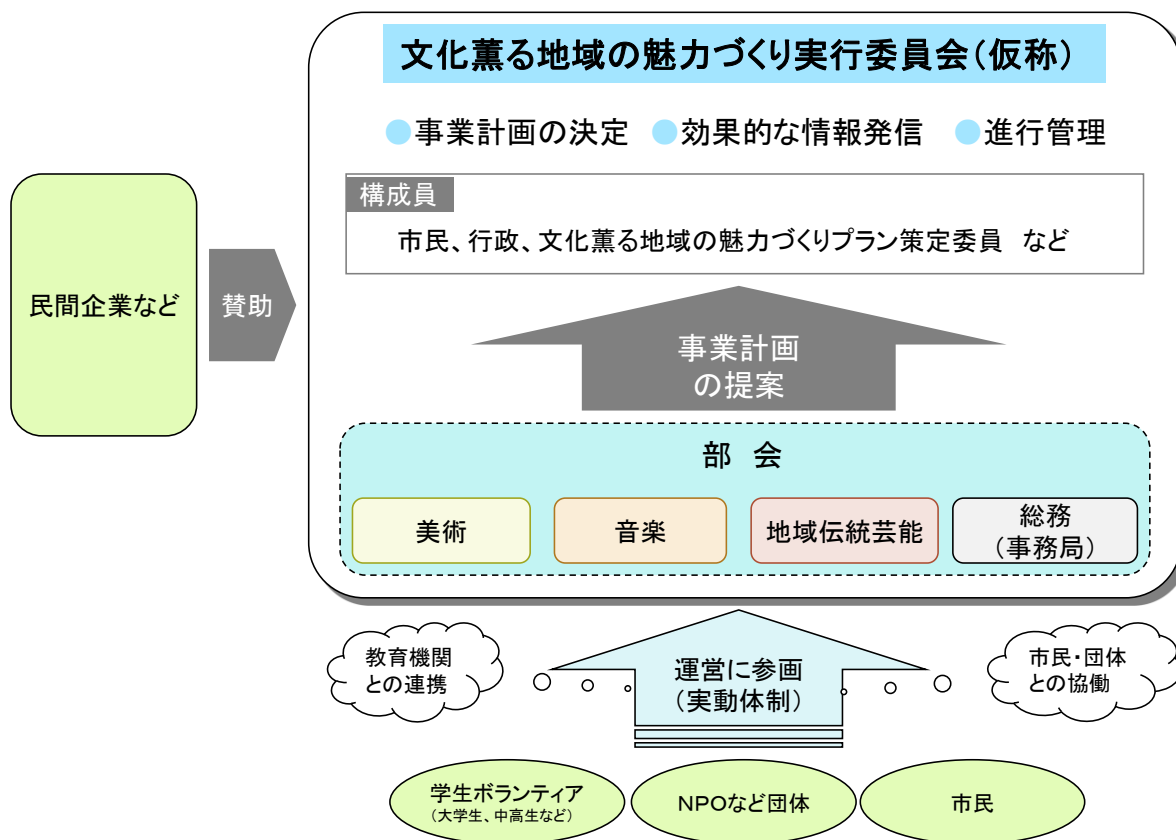
<音楽>

- ・音楽と“あかり”のコラボレーションコンサートの開催 など

<地域伝統芸能>

- ・各地域の伝統芸能を一堂に集めて披露するステージの開催 など

10. プランの推進体制



文化薫る地域の魅力づくりプラン

発行年月日： 2012（平成 24）年 3 月

発 行： 鹿児島市 教育委員会 管理部 文化課

〒892-0816 鹿児島市山下町 6-1

TEL：(099)227-1962 FAX：(099)222-8796